

くり

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病虫害名	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地				発芽		開花				収穫		
実炭疽病								——	——	——		
カツラマルカイガラムシ							——	——	——	——		
モモノゴマダラノメイガ						——	——	——	——	——		
コウモリガ						——	——	——	——	——		
カミキリムシ類					——	——	——	——	——	——		
クリシギゾウムシ									——	——		
キクイムシ類				——	——	——	——	——	——	——		
クリタマバチ							——	——	——	——		

胴枯病

留意事項

- 1 害虫（キクイムシ類、カミキリムシ類など）の食入跡や傷口から病原菌が侵入することが多い。
- 2 早期発見、早期処理に努める。
- 3 密植園や樹勢が衰えた園では発病が多くなる。

防除方法

- 1 苗木は無病のものを用いる。
- 2 なるべく浅植えにする。
- 3 凍害や乾燥を防ぐため高接苗の使用、根際への土盛り、幹へのわら巻き、施肥の適正化などを図り、健全な樹体に育てる。
- 4 被害枝をせん定し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 日焼け防止のため、石灰乳などを太枝や幹に塗布する。
- 6 病患部を削り取り下記の薬剤を塗布する。
 - ・ [トップジンMペースト](#) <1> 【原液 病患部削り取り直後／3回】

実炭疽病（みたんそびょう）

留意事項

- 1 早生種に発病が多い。
- 2 クリタマバチ、クリイガアブラムシの加害は発病を助長する。

防除方法

- 1 枝葉を適度にせん定し、密生を防ぐ。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ベンレート水和剤](#) <1> 【2000～3000倍 裂果前(収穫14日前)／4回】

カツラマルカイガラムシ

留意事項

- 1 樹高を低くして（カットバック）薬剤散布をしやすいようにする。
- 2 冬期防除に重点を置く。
- 3 本種が多発すると枝葉が褐色となり、枯死する。

防除方法

1 12月中～下旬または、発芽前まで（3月中旬）に下記の薬剤を散布する。

- ・ [機械油乳剤95](#) <UNM>

【落葉果樹(除ぶどう) カイガラムシ類 12～14倍 -／-】

- ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> 【落葉果樹 カイガラムシ類 7～10倍 発芽前／-】

2 幼虫発生期（第1世代：6月下旬～7月中旬、第2世代：9月中旬～10月中旬）に下記の薬剤を散布する。

- ・ [エルサン乳剤](#) 劇 <1B>

【カツラマルカイガラムシ若齢幼虫 1000倍 14日／4回】

- ・ [アプロード水和剤](#) <16> 【カイガラムシ類幼虫 1000倍 7日／2回】

モモノゴマダラノメイガ

留意事項

- 1 パダンSG水溶剤は、眼及び皮膚に強い刺激があるので注意する。

防除方法

1 果実収穫後、いがを集めて、ほ場外に持ち出し処分する。

2 幼虫ふ化期（8月中～下旬）に下記の薬剤を散布する。

- ・ [フェニックスフロアブル](#) <28> 【4000倍 前日／2回】

- ・ [ディアナWDG](#) <5> 【10000倍 前日／2回】

- ・ [エルサン乳剤](#) 劇 <1B> 【1000倍 14日／4回】

- ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 <14> 【1500倍 裂果前／3回】

- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4A> 【2000倍 7日／3回】

コウモリガ

留意事項

- 1 葉害のおそれがあるため、薬液が葉にかからないようにする。
- 2 ガットサイドS、サッチューコートSセットの成分MEPの総使用回数は4回以内（但し、樹幹処理は1回以内）。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 4月～5月頃雑草を刈り取って園内を清潔にする。
- 2 食入孔に針金などをさし込んで、幼虫を殺す。
- 3 5月～6月上旬に下記の薬剤を散布または、塗布する。
 - ・ [ガットサイドS](#) <1B>
 - 【2倍 100～1000ml／樹 樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に散布 裂果前(収穫90日前)／1回】または
 - 【1(原液)～1.5倍 樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に塗布 裂果前(収穫90日前)／1回】
 - ・ [サッチューコートSセット](#) <1B>
 - 【15倍 樹幹部及び主枝に散布または塗布 幼虫食入期直前～幼虫食入初期(収穫90日前)／1回】

カミキリムシ類

留意事項

- 1 葉害のおそれがあるため、薬液が葉にかからないようにする。
- 2 トラサイドA乳剤、サッチューコートSセットの成分MEPの総使用回数は4回以内(但し、樹幹処理は1回以内)。

防除方法

- 1 カミキリムシ類の産卵期～幼虫発生期(6月～7月)に下記の薬剤を散布または、塗布する。
 - ・ [トラサイドA乳剤](#) <1B>
 - 【100～200倍 0.5～2L／樹 樹幹部に十分散布 裂果前(収穫14日前)／1回】
 - ・ [サッチューコートSセット](#) <1B>
 - 【50倍 樹幹部及び主枝に散布または塗布 産卵時期(収穫60日前)／1回】
- 2 幼虫食入期に食入孔内へ下記の薬剤を注入する。
 - ・ [ロビンフッド](#) <3A>
 - 【果樹類(除かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー) 樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射 前日／5回】

クリシギゾウムシ

留意事項

- 1 防除方法の「1」はクリミガと共通である。クリミガは地表面近くでまゆを作って越冬する。

防除方法

- 1 冬季に、いが、落葉、せん定枝、枯草などを、土中深く埋没するなどして園を清潔

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

にする。

2 成虫発生期（9月上旬～10月上旬）に下記の薬剤を散布する。

- ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【2000倍 14日／5回】
- ・ [マブリック水和剤20](#) 劇 <3 A> 【2000倍 7日／2回】
- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4 A> 【2000～4000倍 7日／3回】

キクイムシ類

留意事項

- 1 葉害のおそれがあるため、薬液が葉にかからないようにする。
- 2 ガットサイドS、サッチューコートSセットの成分MEPの総使用回数は4回以内（但し、樹幹処理は1回以内）。

防除方法

- 1 寒害や日焼けを起こさないようにし、樹勢をよくする。
- 2 越冬成虫食入期（4月～5月）に下記の薬剤を散布または、塗布する。
 - ・ [ガットサイドS](#) <1 B>
【1.5倍 100～1000ml／樹 樹幹の地際部から約1.5mの高さまで散布
3月～5月（産卵初期）／1回】 または
【1（原液）～1.5倍 樹幹の地際部から約1.5mの高さまで塗布
3月～5月（産卵初期）／1回】
 - ・ [サッチューコートSセット](#) <1 B>
【15倍 樹幹部及び主枝に散布または塗布 産卵時期（収穫90日前）／1回】

クリタマバチ

防除方法

- 1 天敵寄生蜂（チュウゴクオナガコバチ）を放飼する。
- 2 天敵寄生蜂（チュウゴクオナガコバチ）は3月～4月に羽化するので、せん定枝を羽化時期まで残して寄生蜂を保護する。
- 3 せん定を行い樹勢を強く保つ。
- 4 成虫発生期（6月下旬～7月中旬）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【1000～2000倍 羽化脱出期（収穫14日前）／5回】
 - ・ [マブリック水和剤20](#) 劇 <3 A> 【2000倍 7日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。